

4 番（小川義昭君）

市長の考え方はわかりました。もし市長が自分のお子さん、そしてお孫さんがそういう状況であればどうなりますか。これはさっきから私が言っているように、今回の質問は市民に開かれた市政です。私は今の市長はただ単にそうしたことを考えておりませんという一言で、市長のお考えがわかりました。

それでは、7番目の質問に入ります。

冒頭にも述べましたように、作野市長は対話を通し、「市民参加の開かれた市政」を推進すると強調されながら、各種事業や行財政改革を進めてこられました。しかしながら、行政組織の効率化や行財政の健全化を目的とした支所や各公共施設を初め、組織機構の見直しを進めるに当たり、その進め方が余りにも性急で、市民の立場に立った視点や心配りに欠け、市民の意見が反映されないまま、行財政改革の名分のもとに、役所手法ばかりがひとり歩きしているのではないかとの声を耳にしております。

財政状況の厳しい中、施設管理の見直しや職員削減等により、安定的な行財政運営を進めることは、私も理解いたしますが、進め方において市民感情を軽視することがあってはならないのではないかと心配するものであります。例えば、10月下旬に市広報「シリーズ待ったなし！ 行財政改革特集号」が全戸配布されたことや、広報はくさん定期号でも毎月、行政改革についての特集記事が記載されていますが、地域の施設管理の見直しについて市民が協議に参加する機会もなく、行政から一方的に周知、報告する流れになっていないでしょうか。多くの市民は、議会の承認を得た決定事項であるかのように受けとめています。

「市民参加の開かれた市政」、「市民協働のまちづくり」を基本姿勢とうたわれる作野市長としては、特に支所統廃合や施設管理の見直し、先ほどの公立幼稚園の統廃合などについては、広く市民に説明会等を通して声を聞き、十分に協議を重ね合意を得ていくことがふさわしいと考えます。面倒を避けて役所手法で押しがちな職員の従来意識をただすことも必要と考えます。市民参加と協働による開かれた作野市政のあるべき姿について、御見解をお伺いいたします。